

目 次

1. 総論；環境の街作りにむけて	1
1.1. 都市更新の時代	1
1.2. 都市更新の機会を捉えた「環境ニーズ」の実現	1
1.3. 街作りに感覚環境のデザインセンスを入れ込む	2
1.4. 問題対応型ではなく環境設計型の対応	2
1.5. 環境主導・住民主導の街作り	3
2. 分野別検討；熱（ヒートアイランド）環境分野	4
2.1. 都市の熱環境の現況	5
2.2. 都市の熱環境の実態	6
2.2.1. 都市の熱環境悪化の要因	6
2.2.2. 都市の熱環境の観測・実態	9
2.3. 都市の熱環境悪化の影響	13
2.4. 都市の熱環境対策について	14
2.4.1. 国における都市の熱環境対策の動向	14
2.4.2. 熱環境に対応した環境共生型の都市形成に関するこれまでの検討	21
2.4.3. 街作りに関する熱環境対策の全体像と対象空間	22
2.5. 熱環境対策の総合的推進	25
2.5.1. 熱環境対策	25
2.5.2. 熱環境対策を促進するための行政施策の今後の方向	36
2.6. ケーススタディ	43
2.6.1. ケース；東京地区を対象としたケーススタディ	43
2.6.2. ケース；大阪地区を対象としたケーススタディ	51

3. 分野別検討 ; 光環境分野について	63
3.1. 街の照明設計を行う際に踏まえるべき考え方	63
3.1.1. 「街の照明設計」が目指すもの	63
3.1.2. 良い「照明環境」の創出	64
3.1.3. 「必要な照明」と「過剰な照明」の見極め	66
3.1.4. 地域の目的に沿った光環境の創造	67
3.2. 街作りへの適用時の課題	70
3.3. 街作りにおける光環境対策を促進するための行政施策	73
3.3.1. 情報整備	73
3.3.2. 情報普及	73
3.3.3. 人材育成（専門家の育成）	75
3.3.4. 地方公共団体の役割	76
3.4. 良い照明設計に関するガイドライン（「光害対策ガイドライン」概要）	80
4. 分野別検討 ; かおり環境分野について	90
4.1. 「かおり設計」の定義と対象	90
4.1.1. 定義	90
4.1.2. 対象	90
4.1.3. 街の「かおり設計」の意義	90
4.2. 街作りへの「かおり設計」の導入	92
4.2.1. 再開発等での導入	92
4.2.2. 学校等での導入	92
4.2.3. 商店街や自治会の地域緑化の活動への導入	93
4.2.4. 町おこしの一手段としての導入	93
4.3. 「かおり設計」の方法	94
4.3.1. 設計で利用できるデザインツール	94
4.3.2. 「かおりツール」を用いた設計の技術的事項	100
4.3.3. デザインツール利用に当たっての留意事項	103
4.3.4. 「かおり設計」の事例	106
4.4. 街作りにおけるかおり環境対策を促進するための行政施策	109
4.4.1. 情報整備	109
4.4.2. 情報普及	109
4.4.3. 人材育成 ; かおり設計に関する専門家の育成	112
4.4.4. 人材育成 ; 地域での人材育成	112
4.4.5. 地方公共団体の役割	113

5. 分野別検討 ; 音環境分野について	119
5.1. 音環境の分類と街作りの方向性	120
5.2. 音環境のデザイン	122
5.2.1. 騒音との住み分けに配慮した街作り	122
5.2.2. よい音が聞こえる環境の街作り	132
5.3. 音環境形成手法の街作りへの適用	136
5.3.1. 適用のタイミング(時間的視点)	136
5.3.2. 適用場所のスケール(空間的視点)	137
5.3.3. 各主体の役割と連携	138
5.3.4. 手法間の融合	139
6. 感覚環境の街作りの総合的推進	140
6.1. 情報整備	140
6.1.1. 感覚環境に関する情報の整備	140
6.1.2. 教材の整備	140
6.2. 情報普及	140
6.2.1. 情報提供システムの構築	140
6.2.2. 「環境の街作り」に関する環境教育の実施	141
6.3. 人材育成	141
6.3.1. 感覚環境設計の専門家の必要性	141
6.3.2. 環境の街作りに関する人材を育成するために行政がなすべきこと	142
6.4. 市民啓発	143
6.5. 地方公共団体の施策	144
6.5.1. 住民主導・環境主導型の街作り	144
6.5.2. 環境の街作りの進め方について	144
6.5.3. 具体的施策例	145
6.6. 環境の街作りにおける総合デザインの推進	146
6.6.1. 環境の街作りの方向性	146
6.6.2. 直接体験における五感経験を土台とした街作りの推進	146
6.6.3. 感覚環境の総合デザインに関する取組事例	147
6.6.4. 各分野の専門家の連携	147